

UNIVERSAL PASSPORT RX

授業コード	科目名	臨床看護学特論I			担当教員	永田 美和子
jygn117	科目名 (英)	Advanced Maternal and Family NursingI			E-mail	miwako@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	時間割
2単位	学年指定なし	前学期	1~2人	研421	講義終了後	月7限
1. 授業の概要						
高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化と生活への影響について探究する。また、少子高齢化の国内外の高齢者をとりまく様々な状況を理解し、複雑で多様な健康障害をもつ高齢者の健康と生活の質を高めるための援助について、文献抄読、事例検討などを通して検討し探究する。						
2. 到達目標						
1 国内外の高齢者をとりまく様々な状況を理解できる。 2 高齢障害者の身体的・心理的・社会的な機能に関連した看護実践に必要な最新の動向について理解できる。						
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性						
DPの以下の内容に到達できるようにプレゼンテーション・討議を中心として学修する内容である。 1.科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力 2.地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探求する生涯学習能力 3.地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し多職種と協働し看護を実践する能力 4.グローバルな視点で、看護の役割を創造する能力						
4. 授業計画と内容						
第 1 回 ガイダンス 第 2 回 国内の高齢者を取り巻く状況 第 3 回 海外の高齢者を取り巻く状況 第 4 回 高齢者看護学における主要な概念・理論・モデル 第 5 回 高齢者看護学の歴史 (実践・研究・教育) 第 6 回 老化の概念と学説 対象理解と捉え方 第 7 回 高齢者の健康と生活の質① 第 8 回 高齢者の健康と生活の質② 第 9 回 高齢者の心理 第10 回 高齢者の発達課題 第 11 回 高齢者と社会 第 12 回 高齢者と地域文化 第 13 回 高齢者と地域包括ケアシステム 第 14 回 高齢者と倫理 第 15 回 まとめ						
5. テキスト・参考文献						
授業の中で、適宜紹介する。						
6. 準備学習						
授業は、主体的に学習する姿勢・態度が求められる。プレゼンテーションは、事前に課題を探求し、理解した内容を他者に伝えるように工夫して資料を作成し、発表すること。討議では、プレゼンテーションの内容を踏まえ、内容の理解を深めるとともに、建設的な意見を発表し、積極的に討議すること						
7. 成績評価の方法						
・プレゼンテーション50点 (評価視点：事前学習・資料作成の努力、問題発見・解決の努力、発表の適切さ、討議への参画度) ・レポートの内容50点 (評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ) ・合計 100点満点						
8. 履修の条件						
特になし						
9. その他						
原則として対面式での講義であるが、コロナウィルスの影響により講義形態は変更の場合がある。						

UNIVERSAL PASSPORT RX

授業コード	科目名	臨床看護学特論I			担当教員	田場 真由美
jgygn131	科目名 (英)	Advanced Maternal and Family NursingI			E-mail	m.tabata@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	時間割
2単位	学年指定なし	前学期	1～2	看護学研究室15	講義の前後の2コマ 金曜日1限	
1. 授業の概要						
個人・家族・集団・地域の健康レベル向上に関わる看護の理論および方法、保健医療福祉の連携とシステム化、地域の健康課題の解決に必要な社会資源の開発と施策化等について探求する。						
2. 到達目標						
1 公衆衛生看護学の基本的理念の理解について深めることができる。 2 個人・家族・集団・地域の健康レベル向上に関わる看護の理論および方法の理解ができる。 3 保健医療福祉の連携とシステム化、地域の健康課題の解決に必要な社会資源の開発と施策化等について理解ができる。						
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性						
科目と関連があるDP						
1. 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力 2. 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探求する生涯学習力 3. 地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し、多職種と協働し看護を実践する能力 4. グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力						
4. 授業計画と内容						
※1 授業日程は時間割確定後に変更する可能性があります。 ※2 授業については、対面式授業と遠隔授業を併用し実施します。 ※3 資料や課題はこれまで通りに、teamsとメールにて活用し学生へ電子資料を配布します。						
第 1 回 コースガイダンス、公衆衛生看護学の概念 (田場真由美) 第 2 回 対象地域の保健計画と評価① (田場真由美) 第 3 回 文献検討の方法 (田場真由美) 第 4 回 我が国の保健医療福祉の現状① 文献検討の方法 (田場真由美) 第 5 回 公衆衛生看護と理論① (宇座美代子) 第 6 回 公衆衛生看護と理論② (宇座美代子) 第 7 回 我が国の保健医療福祉の現状と課題① (宇座美代子) 第 8 回 対象地域の保健計画と評価② (宇座美代子) 第 9 回 アメリカの統治下における沖縄の公衆衛生看護の変遷 (田場真由美) 第 10 回 諸外国の公衆衛生看護学の歴史 (田場真由美) 第 11 回 対象地域の保健計画と評価③ (田場真由美) 第 12 回 公衆衛生看護と理論③ (田場真由美) 第 13 回 我が国の保健医療福祉の現状と課題② (比嘉憲枝/田場真由美) 第 14 回 我が国の保健医療福祉の現状と課題③ (本村純/田場真由美) 第 15 回 公衆衛生看護学Ⅰのまとめ① (田場真由美) 第 16 回 公衆衛生看護学Ⅰのまとめ② (田場真由美)						
5. テキスト・参考文献						
① Karen Glanz, Barbara K. Rimer, Frances Marcurs Lewis, 曾根智史、湯浅資之、渡部基、鳩野洋子(監訳)：健康行動と健康教育-理論、研究、実践、医学書院、2014。 ② エリザベスT.アンダーソン、ジュディス・マクファーレイン、金川克子、早川和生(監訳)：コミュニテ ィアズ・パートナー医学書院、2009。 ③ 津村智恵子,上野昌江：公衆衛生看護学 第2版、中央法規出版,2012。 ④ イチロー・カワチ,等々力英美：ソーシャル・キャピタルと地域の力 沖縄から考える健康と長寿,日本評論社、2013。						
* 適宜 関連文献、資料を提示する。						
6. 準備学習						
講義に関する内容の自己学習と参加者相互によるディスカッションを行い、事前課題に次回までに準備をすること。						
7. 成績評価の方法						
・活動状況 (評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ) 50点 ・レポートの内容 (評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ) 50点 ・合 計 100 点満点						
8. 履修の条件						
特になし						
9. その他						
授業は講義とゼミナール方式で行う。事前事後学習を行い参加すること。						

UNIVERSAL PASSPORT RX

授業コード	科目名	臨床看護学特論I			担当教員	玉井 なおみ、木村 安貴
jgygn152	科目名 (英)	Advanced Maternal and Family NursingI			E-mail	n.tamai@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	時間割
2単位	学年指定なし	前学期	1~3	看研5 (玉井なおみ) 新研426 (木村 安貴)	月6限・金7限	金6限
1. 授業の概要						
がんの診断と最新の治療方法、がんの疫学、予防、早期発見について学び、がん看護実践で応用できる専門的アセスメント能力の基盤を養う。また、がんサバイバーシップの概念を基に、がんの診断時期から終末期まで、がんとともに生きる人々とその家族の体験を広い視野から理解し、がん患者の複雑な健康問題に対して、包括的な支援を提供するための看護援助方法について探求する。エビデンスと実践を関連付けて理解を深める。						
2. 到達目標						
1. がんの診断時期から終末期まで、がんとともに生きる人々とその家族の体験と健康問題について説明できる。 2. がんサバイバーの特徴とアセスメント、包括的な支援を提供するための看護援助方法について説明できる。 3. がん看護における看護支援や研究上の課題について検討できる。						
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性						
本授業は、看護学研究科博士前期課程の学位プログラムのDPに従い下記について育成する。 DP1. 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力 DP2. 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探究する生涯学習力 DP4. グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力						
4. 授業計画と内容						
第1回 がんサバイバーシップの概念と患者理解 (玉井なおみ) 4/14 第2回 がんサバイバーシップの研究の動向 (玉井なおみ) 4/21 第3回 がんサバイバーシップの疫学的問題 (木村 安貴) 4/28 第4回 化学療法を受けるがん患者の看護実践と課題 (学外講師) 5/12 第5回 放射線療法を受けるがん患者の看護実践と課題 (学外講師) 5/19 第6回 がんサバイバーシップの心理的問題 (木村 安貴) 5/26 第7回 がんサバイバーと家族が抱える身体的・心理社会的現状と課題 (玉井なおみ) 6/2 第8回 AYAがんサバイバーおよび高齢者がんサバイバーの現状と課題 (玉井なおみ) 6/9 第9回 がん患者の家族の心理社会的問題に対する援助方法論：意思決定支援、倫理的問題 (木村 安貴) 6/16 第10回 エビデンスに基づいた看護援助方法の開発 (玉井なおみ) 6/30 第11回 がん遺伝子検査の現状と課題 (学外講師) 7/7 第12回 エビデンス・ベースド・プラクティスに基づいた症状マネジメント (吉澤/玉井) 7/14 第13回 緩和ケア・終末期ケアの概念と看護師の役割機能 (木村 安貴) 7/21 第14回 がん医療を支える多職種連携 (木村 安貴) 7/25 (火) 第15回 事例検討：これまでに関わった事例を通して看護援助方法を考える (玉井なおみ、木村 安貴) 7/28 ・事例検討を通して、がん患者の複雑な課題を明確にし、包括的な支援を実施するための看護援助方法についてまとめ、プレゼンテーションを行う。						
5. テキスト・参考文献						
テキスト：Kenneth D. Miller (2010)／勝俣範之 監訳 (2012)：がんサバイバー 医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす、医学書院 参考文献：必要に応じて国内外の最新の学術論文を資料として配布する。						
6. 準備学習						
毎回、課題を提示するので、次回までに準備すること。						
7. 成績評価の方法						
・活動状況50点 (評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ) ・課題レポート50点 (評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ) ・合計 100点満点						
8. 履修の条件						
なし						
9. その他						
・ 授業は講義とゼミナール方式で行う。事前学習を行い参加すること。 ・ 対面授業とオンライン授業 (事前にMicro soft teamsの使用法を確認すること) を併用することもあります。連絡事項はユニバーサルパスポートやクラスルームを用いるため、常に確認すること。 ・ シラバスはクラスの状況、講義の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解ください。						

UNIVERSAL PASSPORT RX

授業コード	科目名	臨床看護学特論II			担当教員	永田 美和子
jygn180	科目名 (英)	Advanced Maternal and Family NursingII			E-mail	miwako@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	時間割
2単位	学年指定なし	後学期	1~2人	新421	講義終了後	
1. 授業の概要						
加齢や障害により生活機能の低下した高齢者の生活適応に向けたセルフケア能力の回復やQOLを維持・向上を支援する看護方法の開発に必要な知識・技術を探求する。						
2. 到達目標						
生活機能の低下した高齢者の生活適応に向けたセルフケア能力の回復やQOLを維持・向上を支援する看護方法の開発に必要な知識・技術について理解できる。 高齢者看護に関する論文（書籍）を批判的に読み込み、問題点や課題について検討する。						
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性						
DPの以下の内容に到達できるようにプレゼンテーションと討議を中心として学修する内容である。 1.科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力 2.地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探求する生涯学習能力 3.地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し多職種と協働し看護を実践する能力 4.グローバルな視点で、看護の役割を創造する能力						
4. 授業計画と内容						
第 1 回 ガイダンス 第 2 回 高齢者保健医療福祉制度・政策の変遷 第 3 回 高齢者へのケア：高齢者のサポートシステムの現状と課題 第 4 回 家族へのケア：家族のサポートシステムの現状と課題 第 5 回 地域へのケア：ソーシャルサポートの評価 第 6 回 認知機能障害に伴う生活機能障害と支援方法（1）：パーソンセンタードケア など 第 7 回 認知機能障害に伴う生活機能障害と支援方法（2）：タクティールケア 第 8 回 高齢者看護の現状と課題に関する文献検討1 第 9 回 高齢者看護の現状と課題に関する文献検討2 第 10 回 高齢者看護の現状と課題に関する文献検討3 第 11 回 高齢者看護の現状と課題に関する文献検討4 第 12 回 高齢者看護の現状と課題に関する文献検討5 第 13 回 文献検討まとめ（自己の研究課題の検討） 第 14 回 沖縄県北部の健康課題について 文化を基盤とした生活支援方法 第 15 回 まとめ						
5. テキスト・参考文献						
随時提示する。						
6. 準備学習						
事前に課題資料を作成して配布すること。						
7. 成績評価の方法						
・プレゼンテーション		50点				
・レポートの内容		50点				
・合計		100点満点				
8. 履修の条件						
なし						
9. その他						
ディスカッション形式ですすめる。 各種研究会・研修会への案内を随時行う。 授業計画の変更がある場合には事前に連絡をする。						

UNIVERSAL PASSPORT RX

授業コード	科目名	臨床看護学特論II			担当教員	田場 真由美
jgygn194	科目名(英)	Advanced Maternal and Family NursingII			E-mail	m.tabata@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	時間割
2単位	学年指定なし	後学期	1~2人	看護学研究室15	講義の前後の2コマ 金曜日1限	
1. 授業の概要						
臨床看護特論Ⅰの公衆衛生看護学で学んだ理論と方法、保健医療福祉の連携とシステム化、社会資源開発と施策化等を文献検討し、公衆衛生看護学実例の現状・課題の分析を踏まえ、看護実践を探究する。						
2. 到達目標						
1. 地域における保健医療福祉の現状と課題について理解する。 2. 健康の維持・増進のための専門的援助技術の活用について検討する。 3. 公衆衛生看護に関する最新の論文を批判的に読み込み、問題点や課題について検討する。						
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性						
科目と関連があるDP						
1. 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力 2. 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探究する生涯学習力 3. 地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し、多職種と協働し看護を実践する能力 4. グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力						
4. 授業計画と内容						
※1 授業日程は時間割確定後に変更する可能性があります。 ※2 授業については、対面式授業と遠隔授業を併用し実施します。 ※3 資料や課題はこれまで通りに、teamsとメールにて活用し学生へ電子資料を配布します。						
第1回 コースガイダンス、わが国の保健医療福祉の現状と課題 第2回 沖縄県における保健医療福祉の現状と課題① 第3回 沖縄県における保健医療福祉の現状と課題① 第4回 対象地域【場】の地域診断① 第5回 対象地域【場】の地域診断② 第6回 対象地【場】の地域診断③ 第7回 健康の維持・増進のための専門的援助技術に関する文献検討① 第8回 健康の維持・増進のための専門的援助技術に関する文献検討② 第9回 健康の維持・増進のための専門的援助技術に関する文献検討③ 第10回 公衆衛生看護の現状と課題に関する量的文献検討① 第11回 公衆衛生看護の現状と課題に関する量的文献検討② 第12回 公衆衛生看護の現状と課題に関する量的文献検討③ 第13回 公衆衛生看護の現状と課題に関する質的文献検討① 第14回 公衆衛生看護の現状と課題に関する質的文献検討② 第15回 公衆衛生看護学Ⅱのまとめ						
5. テキスト・参考文献						
① Karen Glanz, Barbara K. Rimer, Frances Marcurs Lewis, 曾根智史、湯浅資之、渡部基、鳩野洋子(監訳)：健康行動と健康教育-理論、研究、実践、医学書院、2014。 ② エリザベスT.アンダーソン、ジュディス・マクファーレイ、金川克子、早川和生(監訳)：コミュニテ アズ・パートナー医学書院、2009。 ③ 津村智恵子,上野昌江：公衆衛生看護学 第2版、中央法規出版,2012。 ④ イチロー・カワチ,等々力英美：ソーシャル・キャピタルと地域の力 沖縄から考える健康と長寿,日本評論社、2013。						
6. 準備学習						
講義に関する内容の自己学習と参加者相互によるディスカッションを行い、事前課題に次回までに準備をすること。						
7. 成績評価の方法						
・活動状況(評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ) 50点 ・レポートの内容(評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ) 50点 ・合計 100 点満点						
8. 履修の条件						
公衆衛生看護学特論Ⅰを履修していること。						
9. その他						
授業は講義とゼミナール方式で行う。事前事後学習を行い参加すること。						

UNIVERSAL PASSPORT RX

授業コード	科目名	臨床看護学特論II			担当教員	玉井 なおみ、木村 安貴
jygn222	科目名(英)	Advanced Maternal and Family NursingII			E-mail	n.tamai@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	時間割
2単位	学年指定なし	後学期	1~3	看研5 (玉井なおみ) 新研426 (木村安貴)	月6限・金7限	金6限
1. 授業の概要						
がん看護学領域では、がんサバイバーシップの概念を基に、がんの診断時期から終末期まで、がんとともに生きる人々とその家族の体験を広い視野から理解し、全人的ケアおよびケアリング文化に根ざした看護実践の土台となる理論や概念を探求する。看護実践の主要となる理論の活用について理解を深める。						
2. 到達目標						
1) がん看護に関する主なる理論について構成概念を用いて説明できる。 2) 事例に生じている現象について理論を用いて説明できる。 3) 理論を活用して、看護介入の方法について説明できる。						
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性						
本授業は、看護学研究科博士前期課程の学位プログラムのDPに従い下記について育成する。 DP1. 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力 DP2. 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探究する生涯学習力 DP4. グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力						
4. 授業計画と内容						
第1回 がん看護における理論を活用した実践と研究の動向：・実践での理論の活用方法とがん患者・家族を理解する上での理論について・文献を活用した国内外の理論を活用した研究の動向 (玉井なおみ) 第2回 がん看護の高度実践専門看護師に求められる役割や変革者に必要な概念：・高度実践看護のコアコンピテンシー、役割獲得プロセスモデル、リーダーシップ論に基づく変革者の役割等 (木村安貴) 第3回 危機理論と看護介入：・危機理論を活用したがん患者・家族の理解と看護介入・危機理論を活用した事例検討 (木村安貴) 第4回 悲嘆理論と看護介入：・悲嘆理論を活用した終末期がん患者と家族の理解：予期的悲嘆や悲嘆プロセスの理解・悲嘆理論を活用した事例検討 (玉井なおみ) 第5・6回 ストレス・コーピング理論と看護介入：・ストレス・コーピング理論を活用した患者・家族の理解と看護介入・ストレス・コーピング理論を活用した事例検討 (玉井なおみ) 第7・8回 症状マネジメントモデル：・症状マネジメントモデルを活用したがん患者の苦痛症状の理解と看護介入・症状マネジメントモデルを活用した事例検討 (吉澤龍太/玉井) 第9・10回 全体性パラダイムに基づく理論：・マーガレットA. ニューマンの健康モデルを活用したがん患者の理解と看護介入・健康モデルを活用した事例検討 (玉井なおみ) 第11・12回 スピリチュアルケアに関する理論的枠組み：・終末期がん患者のスピリチュアルペインの概念と患者理解・終末期がん患者のスピリチュアルケアの実践 (木村安貴) 第13回 在宅家族支援モデル・在宅におけるがん患者と家族の支援モデルについて (吉澤龍太/玉井) 第14回 エビデンスに基づいた看護援助方法の開発 (木村安貴) 第15回 がん看護の理論的枠組みを活用した事例検討・これまで学習してきた理論を活用して、学生が体験したがん患者と家族の実際の事例について分析する。(玉井なおみ、木村安貴)						
5. テキスト・参考文献						
テキスト：・Joanne K. Itano, Karen N. Taoka (2005) / 小島操子 監訳 (2007)：がん看護コアカリキュラム, 医学書院 ・Linda H. Eaton, Janelle M. Tipton (2009, 2011) / 鈴木志津枝 監訳 (2013)：がん看護PEPリソース 患者アウトカムを高めるケアのエビデンス, 医学書院 参考文献：必要に応じて国内外の最新の学術論文を資料として配布する。						
6. 準備学習						
毎回、課題を提示するので、次回までに準備すること。						
7. 成績評価の方法						
・活動状況50点 (評価視点：授業へのコミットメント, 問題発見および解決への視点, プレゼンテーションの適切さ) ・課題レポート50点 (評価視点：テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ) ・合計 100点満点						
8. 履修の条件						
臨床看護学特論I (がん看護学領域) を履修済みであること						
9. その他						
・授業は講義とゼミナール方式で行う。事前学習を行い参加すること。 ・対面授業とオンライン授業 (事前にMicro soft teamsの使用法を確認すること) を併用することもあります。連絡事項や課題提出はクラスルームを使用しますので、常に確認すること。						